

## 景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成27年11月)

### ～現状判断は5か月連続で低下、DIの50割れが続く～

- 景気ウォッチャー調査・11月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が5か月連続で低下、先行き判断も3か月ぶりの低下となった。
- 足元の状況については、気温が例年よりも高めに推移したことで、衣料品を中心に、家電や食品などの季節商品の売行きに大きな影響が出た。それに加えて、中国経済の減速による影響のほか、インバウンド関連にも変化がみられたことから、DIの低下につながったとみられる。
- インバウンドに関しては、中国経済の減速による影響に加え、免税対象商品の拡大から1年が経過したことで減速感が出てきているとの声が聞かれる。
- 一方、先行きについても暖冬予想が出ていることから、冬物商品の売行きへの不安の声が多いほか、中国経済の減速に対する懸念の声が依然として聞かれる。さらに、クリスマス・年末商戦の盛り上がりに対する期待がここへきて下がっている。
- 中国経済の減速への懸念については、先行き関連では言及が減少している。それに代わってインバウンドに関する懸念が高まってきているが、元をたどれば中国情勢に起因する可能性が高いことから、引き続き注意が必要とみられる。

#### 「インバウンド」関連のコメント(現状判断)

やや良くなっている	高級レストラン(企画)	・インバウンド需要で宿泊客数が増えているほか、料飲、婚礼客数も増加傾向にある。
	都市型ホテル(スタッフ)	・今月は年間でも高稼働の時期となるため、販売室数が増える余地は少ない。中国、韓国などからの訪日客の増加で、販売室数は前年比で105%となったのに対し、客室収入は126%と異常な数字が出ている。さらに、朝食の利用も大幅にアップしている。ただし、朝食以外はマイナスが続いており、宴会も前年比で微増にとどまっている。結局は円安で訪日客が増えているだけであり、国内景気が良いとはいえない。
変わらない	百貨店(売場主任)	・気温が下がらず、冬物衣料が苦戦しているほか、外国人旅行客の購買も免税対象商品の拡大から1年が経過し、伸び悩んでいる。前年に比べると売上はマイナス3%となっている。
	百貨店(売場主任)	・気温の低下の遅れによる影響が大きく、インバウンドなどの増加でも吸収できていない。
	百貨店(外商担当)	・百貨店の主要顧客層による、婦人服や雑貨などの売上は低調である。これまで売上をけん引してきたインバウンドの消費については、前年比での伸び率は鈍化しつつあるものの、依然として前年を上回っている。
	百貨店(マネージャー)	・自社を取り巻く11月の状況は 気温も高いためか冬物商材が苦戦している。特に、ボリューム層が中心の雑貨、衣料品が苦戦し、現金売上は前年比で約5.0%減となっている。一方、富裕層中心の外商売上は2けた増であるほか、インバウンドも一時の勢いはないものの、堅調に推移している。全体的には販売単価が上昇し、販売点数が減少するという構図に変化はない。
	一般レストラン(経理担当)	・法人関係の宴席の状況を見ると、大きな変化はない。ただし、インバウンドによる利用は堅調である。

変わらない	一般レストラン（企画）	・ 来客数の前年比がなかなか上向かず、一進一退の状況である。関東に比べると、来客数の優位性が少し低下してきている。一方、グループ会社のホテル事業は、関東、関西共にインバウンドの利用増で客室稼働率が大きく上昇するなど、かなり好調に推移している。
	都市型ホテル（支配人）	・ インバウンドによる売上で好調が続き、数か月は大きな変化がないものの、宴会予約は昨年並みであるため、景気が上向きになっているとはいえない。
	都市型ホテル（管理担当）	・ 海外からの宿泊客は好調であるが、ここへきて団体客のキャンセルが目立ち始めている。レストランも一時期の勢いはなくなり、やや低調に推移している。
	都市型ホテル（総務担当）	・ インバウンドが引き続き高水準を保っている結果、国内の宿泊客も客室単価が高水準となっている。稼働率は上限にきており、これ以上の販売室数の増加は望めない。
	その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・ 相変わらずインバウンドは好調であるが、その割には全体の伸びが鈍い。
やや悪くなっている	百貨店（売場マネージャー）	・ 雨が前年よりも増えたほか、気温が思ったほど低下しなかったため、ファッション関連の消費が不振を極めている。また、インバウンドについても、10月の国慶節以降は昨年までの勢いが低下している。大型商業施設の開業といった外部環境の変化も、神戸地区にとってはマイナスの部分がある。
	百貨店（マネージャー）	・ 11月は下旬まで気温が高かったため、冬物コートやブルゾンなどの重衣料の動きが悪く、全体の足を引っ張った。これまでのけん引であったインバウンド消費についても、時計などの高額品の増加率が大幅にダウンしており、中国経済の冷え込みによる悪影響が出始めていると推測される。
	百貨店（マネージャー）	・ 気温の高止まりもあり、コートなどの防寒衣料が不振であるほか、婦人服、紳士服の中間層向けの消費が大きく苦戦している。一方、相変わらずインバウンド消費は盛況で、化粧品や特選衣料品は前年比で2けた増を続けており、百貨店の売上がインバウンド消費に支えられている傾向がより一層強まっている。当店では食料品フロアの大型改装を実施し、入店客が前年比で3～4%ほど伸びているため、このフロアは前年売上を上回っているが、店全体の売上を押し上げるまでには至っていない。消費者の節約志向、商品選別の動きがより強まり、ついで買いや先買いといった購買行動があまりみられない。
悪くなっている	百貨店（企画担当）	・ インバウンド売上が、上半期の1日当たり5500万円から4000万円に減少している。天候不順の影響もあり、苦戦している。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		年 13					14					15														
		月 11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
現状判断	近畿	55.8	56.1	55.6	56.3	60.8	43.6	45.9	47.9	51.4	49.3	49.4	47.0	45.4	47.6	47.8	53.3	54.6	54.9	53.1	53.3	52.4	51.4	50.5	49.9	46.8
	(全国)	53.5	55.7	54.7	53.0	57.9	41.6	45.1	47.7	51.3	47.4	47.4	44.0	41.5	45.2	45.6	50.1	52.2	53.6	53.3	51.0	51.6	49.3	47.5	48.2	46.1
先行き判断	近畿	58.5	57.3	49.9	42.0	36.0	51.4	54.1	54.5	51.9	51.9	51.5	50.0	48.2	48.6	51.6	55.5	55.5	56.1	53.7	54.2	52.6	47.3	49.9	51.4	48.7
	(全国)	54.8	54.7	49.0	40.0	34.7	50.3	53.8	53.3	51.5	50.4	48.7	46.6	44.0	46.7	50.0	53.2	53.4	54.2	54.5	53.5	51.9	48.2	49.1	49.1	48.2